

研究課題 (テーマ)		看護師の多職種連携における困難感の要因とその構造検証	
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	看護学科	助教	室谷寛
分担者	看護学科	教授	片田裕子
研究結果の概要			
<p>【背景・目的】</p> <p>人々の価値観の多様化や患者の医療ニーズの複雑化に伴い、看護師は医師や薬剤師や理学療法士等の医療職種と連携を図ることで、患者の価値観や望みを尊重した質の高い医療・看護を提供することが一層求められている。また、病床数の削減や在院日数の短縮が推し進められており、慢性疾患をもつ患者の退院後の療養生活を方向づけるうえで、病棟で働く看護師が多職種連携で担う役割はますます大きくなっている。しかし、多職種連携に関して看護師は様々な困難な思いを抱えていることが報告されているが、それらの要因の構造は明らかではない。</p> <p>そのため、本研究では、病棟で働く看護師が多職種連携において感じている困難感の要因とその構造を明らかにすることを目的とした。</p> <p>【方法】</p> <p>慢性疾患を有して入院された患者へ、継続看護として退院支援を行っている病棟で働く全国の看護師を対象に、郵送法による無記名自記式質問紙調査を行った。本研究は富山県立大学看護学部倫理審査委員会の承認を得て実施した。</p> <p>【結果】</p> <p>アンケートの配布・回収を終了した。データ入力を終え、データ全体の傾向や特徴をグラフ化して捉え、記述統計量を算出した。現在は統計学的に分析を進めている。</p>			
今後の展開			
引き続き分析を進める。本研究の結果は、関連学会及び学術雑誌に発表する。			